

紋枯病の多発生に注意しましょう

7月の紋枯病の発生面積は、前年より多くなっています。8月の気温は平年並みですが、降水量は多いと予報されています。紋枯病菌は高温で多湿を好むことから今後、多発生する恐れがあります。

紋枯病は多発生すると葉鞘ばかりでなく葉や穂まで枯死し、減収するので、防除を徹底しましょう。

1 防除の必要な圃場

- 穂ばらみ期の発病株率が中生では20%以上の圃場
- 上記の基準に達していなくても倒伏が予想される圃場



2 防除時期

- 1回目の散布は穂ばらみ期～出穂直前に散布
- 2回目は出穂期～穂揃期に散布

3 防除薬剤（特に早生品種では収穫前使用可能日数に注意してください）

薬剤名	10aあたり 使用量	使用濃度	安全使用基準	
			使用時期	使用回数
アミスタートレボン SE	60～150 g	1,000 倍	収穫 21 日前まで	3 回以内
バリダシン粉剤 DL	3～4 kg		収穫 14 日前まで	5 回以内
バリダシン液剤 5		1,000 倍	収穫 14 日前まで	5 回以内

- 下位の病斑に薬剤が十分付着するように散布する。

☆詳しい農薬情報は農薬登録システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllg301.do>)をご覧ください。